

2016年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日	2017年 7月 30日	
氏名：	山家 友明	実施国：	モザンビーク	
		協力活動・調査研究		
活動名称	モリンガを通じた、モザンビーク村落女性への雇用創出活動			
実施期間	2016年 12月 1日 ~ 2017年 6月 30日			
(1) 申請した動機				
<p>私は現在、上記対象活動地にてモリンガの栽培・加工業を営んでいる。活動を希望するに至った背景として、現在進めているモリンガ事業を、より地域住民、特に農村女性を巻き込んだ活動へと展開させていきたいと考えたことが挙げられる。</p>				
(2) 活動内容概要				
<p><b>【活動目的】</b></p> <p>1. 農村女性の働く場を創出  私の活動している村落では、9割以上の世帯が農業を営み、自給自足に近い生活を送っている。現金収入源として、薪、木炭、余剰農作物（とうもろこしや豆類等）が挙げられるが、安定した収入源を持つ家族は少ない。本プロジェクトでは、対象村落に新たな収入手段を作り、村の活性化を試みる。対象を女性にする理由は、現地村落部で、夫が現金収入を妻へ渡さず、無計画に散財する話を耳にしたことが背景にある。妻が生活用具や子どもの文房具など、家庭へ有効にお金を使いたいのに対し、夫は酒や煙草などの嗜好品にお金を使う傾向にある。本プロジェクトでは、女性を組織化し、彼女らに現金収入手段を提供することで、対象地域の生活改善を図る。</p> <p>2. モリンガの普及  モリンガとは、インドを原産地とする、栄養価の豊富な植物である。ここモザンビークでは、古くからインド人が住んでいたこともあり、モリンガの木が多数存在している。しかしながら、多くの現地住民は、モリンガの活用法を知らず、家の生け垣に利用する程度である。モリンガの葉は、100種類以上の栄養素を含み、先進国ではサプリメントとして、近年注目を集めている。また、種からは良質な油が採れ、食用油としても活用可能である。  本プロジェクトでは、モリンガに関する講習会を計2回実施することで、対象地域のモリンガ普及を図る。</p> <p><b>【活動内容】</b>  本プロジェクトを通じ、下記3つの活動を実施した。</p> <p>1. モリンガ簡易加工施設の建設  モリンガの葉の簡易加工施設を建設し、組織化した女性グループへ葉の収穫、加工作業を委託する。</p> <p>2. 女性の組織化、加工研修  対象村落の女性15名を集め、モリンガの加工グループを作った。加工研修では、葉の収穫から商品の梱包までの一連の流れを、申請者が女性グループへ指導した。</p> <p>3. モリンガに関する講習会の実施  上記2の加工研修と組み合わせて、女性加工グループ+地域住民を集め、計2回の講習会を実施した。講習会では、モリンガの栽培・加工・活用方法をテーマとして取り扱った。</p>				

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

【活動成果】

1. モリンガ簡易加工施設の建設

本活動を通じて、対象の農村地域にモリンガの簡易加工施設の建設が実現した。建物面積は 80㎡で、建物内には4室（葉の洗浄・選別室、乾燥室、倉庫、手洗い場）を設けた。本プロジェクトでの建設には、大工の他、4名の地元住民が作業に携わった。



写真 1：建設開始前



写真 2：現地の伝統的地鎮祭



写真 3：支出を抑えるため、ブロックは型枠を使用し自作



写真 4：建設風景



写真 3：加工施設完成



写真 4：加工施設建設後の記念撮影。当日は、コミュニティ長も参加

## 2. 女性の組織化、加工研修及びモリンガに関する講習会の実施

建設作業と並行し、女性の組織化を進めた。加工施設周辺に住む女性 15 名との会合を実施し、本プロジェクト趣旨及び今後のモリンガ加工の展望を説明した。説明には、ポルトガル語と現地語の話せる地元民の協力を得て、現地語を混ぜた説明を行い、女性たちへの理解促進を試みた。

上記会合に参加した地域女性住民 15 名が、モリンガ加工に意欲を示してくれた。そこで、次のステップとして、モリンガに関する講習会を実施した。講習会では、女性 15 名と地元有力者を招待し、『モリンガとは』『モリンガの栽培』『モリンガの加工方法』をテーマに取り上げた。



写真 5：モリンガに関する講習会



写真 6：モリンガ葉の収穫方法を説明



写真 7：モリンガ農地



写真 8：モリンガ葉の洗浄方法を説明



写真 9：加工施設内の訪問



写真 10：モリンガ葉の加工実習

### 【苦勞した点・反省点】

#### 1. モリング簡易加工施設の建設

建設においては、工程管理に最も苦戦した。私の建築に対する知識不足もあり、次々と想定外の作業工程が発生した。また、現地で雇った地元大工に計画性がなく、指示通りに必要資材を買っても、量が足りなくなり、後で追加調達を強られるケースが度々あった。当初、1ヶ月と予想していた建設期間だが、最終的に3ヶ月を要する結果となった。

雇った大工の技術・管理不足から、建物に様々な欠陥が確認されている。例を挙げると、土地の傾斜を十分に配慮して施工しなかったため、床に目立った傾きがある。また、床のセメント塗りに対して、塗った後は数日間水をまいて湿らせた状態を保つ必要あり、と認識していたにもかかわらず、他の作業員へ指示を出さずに現場を離れた。そのため、床塗りが甘く、施工完了後早くもひび割れなどが確認されている。

#### 2. 女性の組織化、加工研修及びモリングに関する講習会の実施

女性の組織化や加工研修自体は、参加者からの反応も良く、好評であった。反省点としては、発言の少ない参加者が内容を理解しているか、確認してから話を進めるやり方が望ましかったように感じている。農村地域では、講習会などの場で、理解できなくても恥ずかしさから質問できない人間が多い。次回このような講習を開催する場合は、参加者全体の理解度を都度確認しながら進行する方法をとりたい。

#### (4) 今後のプラン

今後のプランとしては、本プロジェクトで建設したモリング加工施設を使い、研修を受けた女性たちへ加工作業を委託する計画がある。まずは衛生面の改善や更なる技術指導を行うことでモリング加工品の質を高め、それを近接の都市部へ販売できるよう、販路開拓を展開していきたい。